

ストラスブールで学んだ、あるいは獲得した 3 つのこと

理学部 1 年 Y.S.

今回のストラスブール大学フランス語研修において、日常会話レベルのフランス語の語彙の習得、英語の偉大さの再認識、フランス語を学習する意欲の獲得の以上 3 つの収穫があった。

第一に、日常会話レベルのフランス語の語彙は、主にストラスブール大学での授業や買い物などの日常生活の中で習得した。ストラスブール大学での授業は日本での授業とは異なる点がいくつかあった。例えば、ペアワークやグループワークが多かったり、プリントの文章を復唱するというよりも自分で文章を作ることが中心だったり、生徒が分かりにくそうな単語をすぐに画像検索をかけて視覚的にわかりやすくしたりする工夫がなされていた。授業の中で、アルザスの伝統的な料理やスーパーでよく見かける食材の単語を紹介してくれたのは特に役立った。買い物をする際、単純に食材を買う時だけでなく調味料や加工食品を買う時にも、原材料がある程度わかるようになった。自分自身、日本ではあまりやらない行為ではあったが、エレベーターやトラムでのアナウンスに耳を傾けて、聞こえたとおりに google 翻訳で発音して意味を考えたりもした。

第二に、英語の偉大さは、主にストラスブール大学での授業や学生との交流、家庭訪問、欧州議会への見学の際に再認識した。授業中、先生は原則的にフランス語で話すが、私たちはフランス語を学習し始めて長い人でも 2 年程度の見習いなので、本当に誰も理解できない時が何回かあった。そんなときに先生が奥の手として英語で話してくれて、多くの人が理解できたということがあった。現地の学生にも英語がわかる子がいて、**Comment dit-on « umbrella » en français?**と尋ねることで、その単語を教えてもらうことができた。ちなみにフランス語で傘は、**parapluie** と言うそうで、雨 **pluie** を遮る **para** という成り立ちだということも教わった。一日ホームステイの家庭訪問のときは、日本学科の学生と違って日本語があまり通じないのでかなり不安ではあったが、大学の先生同様に、こちらが理解していなさそうときは英語で話してくれたので、スムーズとは言えないがしっかりコミュニケーションをとることができたと感じた。そして、英語とフランス語では似ている単語が多いので会話中の単語の意味を推測することができることも多かった。今まで英語の聞き取りにはほとんど自信がなかったのだが、ノンネイティブ同士の会話ならある程度話せることが分かったし、自信につながった。欧州議会の見学では、ガイドの方が終始英語で説明してくれた。建物の内装に木材が多く使われており、心地よい木の香りがして和風な印象を抱いたので、ガイドさんに何の木が使われているのか尋ねたところ、杉 **cedar** と檜 **oak** が使われていると教えてくれた。このように英語ならば簡単な質問もできるので、英語の偉大さを改めて感じた。

最後に、フランス語を学習する意欲は、主にストラスブール大学の日本学科の生徒との交流や家庭訪問を通して獲得した。ストラスブール大学の日本学科の学生たちとは一緒に食

事をして交流した。彼らの話す日本語はところどころおかしな点があるとはいえ、とても上手で驚いた。それにフランス語とはほど遠い言語である日本語を習得しようと努力する姿がかっこよくて憧れを抱いた。日本に好意を抱いてくれており、将来日本に留学したい、日本で働きたいという話を聞いて素直に嬉しく、初めて日本人である誇りを感じた。私は彼らのようにフランス語を専門で学習する学生ではないけれど、彼らともっとコミュニケーションをとり、彼らが日本に来た際には少しは案内役を務められるようになりたいと思うようになった。1日ホームステイで訪れた家庭も日本に興味を抱いてくれており、葛飾北斎の画集や妖怪の画集、日本の観光案内本も持っていて今年は東京や京都に旅行に行く予定があるらしい。名古屋に来る予定がないのは少し残念ではあったが、前述の観光案内本に付箋を張り付けて、ここに行きたいと語ってくれる目が輝いているように感じ、嬉しく思った。また、ホストファザーは日本のバンドをいくつか紹介してくれた。歌詞の意味は分かって聞いているのかと尋ねてみたところ、わからないけどミュージックビデオの映像やボーカルの声が好きという返答をもらって、言われてみると私自身も洋楽を歌詞の意味など気にも留めず、リズムの良さで聞いていることに気づかされた。大学の授業でフランス語の歌を紹介されたので、そこから入門してフランス語の歌を聞いていきたいなと感じた。

高校で世界史を履修してフランスという国に興味を持っていたとはいえ、正直かっこよさそうだからフランス語を選び、田所光男先生の授業でこの研修の存在を知り、同じ学部の友人に誘われて応募して、無事に行けることになるとは、去年の自分は思ってもみなかった。初めての海外がヨーロッパかつ英語以外の外国語研修で、本当に日本にいたままでは味わえないような体験をできた。今回は2週間という短い期間であったが、今度は1か月以上の留学を試みたいなと感じた。